

# いわみざわ



発行所 隊友会岩見沢支部  
編集 陸上自衛隊 岩見沢駐屯地  
印刷所 福祉村 岩見沢市栗沢町  
最上350  
TEL.(0126)45-2721



## 謹賀新年

## 年頭の辞



第12施設群長兼ねて

岩見沢駐屯地司令

1等陸佐 末廣 和祥

明けましておめでとうございませう。清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。協力諸団体の皆様、平素より当駐屯地に対する御理解御協力を賜り誠にありがとうございます。隊員家族の皆様、隊員達をいつも温かく見守り支えていただき感謝の言葉もありません。昨今、任務や訓練の為、忙しく家族団欒もままならないのではないかと感じます。寂しい思いをさせて申し訳ありません。しかしながらそれは皆様のお父様(お母様)、御主人(御夫人)、御息(御令嬢)が有能であり国家に期待され貢献している証でもあります。どうか誇りに思ってください。

平成27年の干支は「乙未」。陽明学者安岡正篤の書「干支の活学」によると「乙」は堅い殻を打ち破った芽が初春の寒気に耐えながら伸びようとする様子を示し「未」は枝葉が繁茂し内側がうす暗く、味く(なる)図のようです。即ち26年(甲午)は堅い殻を打ち破り改革の歩を進めるといふ年でありましたが、甲午に得られた成果を強い意志をもって内外の障害を克服し発

展させるべき年が今年(乙未)と言えるでしょう。昨年はアベノミクスが功を奏し景気回復の兆候が見えてきました。また、不安定不透明感を増す国際情勢下、集团的自衛権行使容認や特定秘密保護法の施行、武器輸出三原則の緩和等、今までとは異なる動きがありました。今年はこちらが改革を進展させ実効化することが求められることになりました。岩見沢駐屯地部隊も昨年、革新的な取り組みを実施しました。ICTの活用による指揮幕僚活動の質的向上、部隊訓練における新規技術の積極的導入等に努めました。また総監から機能回復・向上を命じられた矢別演習場整備は年間を通じ精力的に取り組み高い評価をいただきました。災害対処においては岩見沢、三笠両市との間に「災害時等における連携に関する協定」を締結し災害時の情報共有を目的としてUTM座標の地図への付記、ICT活用に着意すること等に留意すること、自治体が準備した災害救援器材を部隊が運用すること

等の枠組みを作りました。駐屯地創立記念日においては地元参加型をコンセプトに「アイラブ空知」と銘打って実施し過去最多3,500名(例年800名)の集客を達成し地元の方々からも高い評価を得ました。更には地元の方々の御発意により「岩見沢駐屯地友の会」が発足し益々地元との距離が近くなりました。詳しくは駐屯地のホームページをご覧ください。精力的な取り組みがご覧いただけです。本年は更に訓練を精力的に実施し精強に邁進するとともに部隊行動時の連携要領に関し隊友会、父兄会とも調整を深化する等、行動に実効性を持たせるべく努力する所存であります。世界平和に国家の平和と独立に地域の安心・安全に寄与する為、駐屯地司令以下隊員一同、心を一つにし力を一つにし日々精進、「百万一心」の精神でプロとして考え抜きやり抜く所存でありますので引き続き御理解御協力の程お願い申し上げます。

